

吉川貴盛農林水産相インタビュー

聞き手 十勝毎日新聞社・林浩史社長

スマート農業の元年 十勝の力強さに期待

2019年1月19日付 十勝毎日新聞掲載

【東京】十勝毎日新聞社の林浩史社長のインタビューに応じた吉川貴盛農林水産相は、十勝で建設が滞るバイオガスプラントについて大規模化が進む酪農・畜産のふん尿処理の観点から必要な施設と強調、日米物品貿易協定に関しては、日米双方の国内事情から早期の交渉開始は難しいとの見方を示した。先端技術を活用した次世代農業の推進、外国人材の活用についても持論を展開した。概要を紹介する。（文中敬称略）

11日、農水省内で行われた。送電線容量の問題で建設が進まないバイオガスプラントについては、推進する姿勢を示した。日米物品貿易協定の交渉に向けては、TPP（環太平洋連携協定）の内容が基本になるとの見解を語った。

スマート農業に関しては、「今年は実証から実装に移す元年」と強調。無人トラクターなど高額なICT（情報通信技術）農機を普及するため、農業の高収益化を目的に補助する「産地パワーアップ事業」にスマート農業を組み込むなど、生産者の負担を抑える仕組みを提案した。

＜吉川農水相発言骨子＞

- ・バイオガスプラントの実現方向
- ・日米物品貿易協定の交渉方針
- ・農業現場での外国人材の活用
- ・スマート農業の推進方策



握手する吉川貴盛農水相（左）と林浩史社長

◆バイオガス施設へ全力



バイオガスプラントやスマート農業の推進、国際交渉の行方などについて切り込んだ林社長

林 食料基地・北海道の中でも十勝農業は先進的とされている。十勝の印象は。吉川 農業に関して十勝ほど力強い地域はない。特に指導体制がすごい。十勝地区農協組合長会の有塚利宣会長をはじめ、24JAの皆さんが結束して頑張っている。次から次へと新たな発想を出していただける点も本当に力強い。

昨年のJA取扱高が3320億円と過去2番目の数字

を記録した。酪農・畜産だけで2000億円を超えたというが、特に酪農分野は期待している。

林 酪農では飼育頭数の増加を背景に、バイオガスプラント設置の動きが活発化している。ただ、ここに来て壁にぶつかっている。

吉川 近年、家畜のふん尿を処理して発電するバイオガスプラントを、行政や農業団体が一緒になって十勝全体で展開しようとしている。十勝では新たに二十数カ所を造りたいと聞いているが、かなり大掛かりな計画だ。

残念ながら、北電の送電線容量の問題で電力を受け入れられず、計画を凍結するところも現れている。しかし、畜産、酪農地帯の将来を考えると、ふん尿処理は大切な問題。しっかり解決することが、畜産・酪農の発展につながる。